

# 持続可能な社会の創り手を育成する藤岡教育の推進

☆子ども主体の授業づくり  
(主体的・対話的・深い学び)



## ◇学びのつながりを踏まえた授業づくり

### ○「これまで・ここでは・このあとは」のプレートを貼りましょう

これまで……既習事項や子どもの体験など本時の課題解決のための手がかりを示します。  
ここでは……ここで学ぶ価値や意義を明確にするために、今日やることを端的に示します。  
このあとは……単元の終末やねらいに迫る学習のゴールを意識させ、見通しをもたせます。

## ◇子どもの主体的な学習を促すつなぎ教材の活用

### ○つなぎ教材を活用し、子どもの主体的な学びを促しましょう つなぎ教材の3つの型を意識

- 1 復習型……前学年、前単元、昨日の学習内容、宿題など
- 2 発展型……単元のゴールの姿、去年の児童生徒の作品、一流選手のプレー、手本など
- 3 即時活用型……模型や図(回路図など)、友達の意見、考え、日常生活につながる出来事など

## ◇やる気の生徒指導

### ◇生徒指導実践上の4つの視点で児童生徒の意欲を高める (自己決定、自己存在感、共感的な人間関係、安全・安心な風土の醸成)

#### ○ネームプレートを貼り、子どもの活躍を可視化しましょう

- 自己決定……「ねらいにかかわる大事な場面で、自分で決める」  
・根拠をもとに自分の考えを決めさせる。
- 自己存在感……「一人一人が認められ、活躍できる」  
・意図的に指名するなど授業の中で子どもを生かす。
- 共感的な人間関係……「お互いに認め合い、共に努力する」  
・考えを共有し、お互いのよさを認め合う場面を取り入れる。
- 安全・安心な風土……「よさを認め・ほめ・伸ばす雰囲気をつくる」  
・間違っても大丈夫と安心して発言できる関係をつくる。



## ◇主体的な学習を促す授業づくりのポイント

導入場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習の見通しをもたせましょう ・単元のゴールの姿を示したり、学習計画表を活用したりしましょう。</li> <li>◇子どもがわくわくする課題を設定しましょう ・必要感のある課題を設定し、本時のめあてを子どもと一緒に作りましょう。</li> </ul>
展開場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自己決定する機会や場面を確保しましょう ・課題の選択、調べ方、まとめ方等、自己決定できる機会や場面を増やしましょう。</li> <li>◇ひとりで思考する(任せる)時間を確保しましょう ・つなぎ教材をヒントに自分の考えをもたせましょう。考えの整理に板書とICTを活用しましょう。</li> <li>◇目的のある学び合いを取り入れましょう ・学び合いの目的を明確にして、ペア、グループ、クラス全体等の形態を工夫しましょう。</li> </ul>
ふりかえり場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習した結果等大切なことは子どもに発言させましょう ・「めあて」を踏まえた「まとめ・ふりかえり」を自分の言葉で書かせ発表させましょう。</li> <li>◇「わかった!できた!」と実感できるふりかえりをしましょう ・複線型の課題(基礎・発展・応用等)を準備し、できた子を待たせない工夫をしましょう。</li> </ul>

# ～総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメント～

生活科・総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム  
マネジメント(単元配列表・ESDカレンダー)

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
<p>身に付けさせる資質・能力(例) ①コミュニケーション力②多面的・総合的に考える力③他者と協力する態度④進んで参加する態度</p>														
国語	中学1年(例)		国語の時間に根拠を明確にした提言を作成する。			【書】筋道を立てて根拠を明確に		【書】自分を見つめる(構成・描写)						
書写								国語の時間で提案の構成や描写を工夫し、完成させる。						
社会								Emergency Food(非常食)						
数学														
理科			防災教育講演会や防災給食の日(非常食)等とつなげる。											
英語														
特活	高原学校 避難訓練		避難訓練 防災給食		文化祭		授業参観 防災クロスロード		職業人に話を聞く会 避難訓練		授業参観 総合フェスタ			
行事														
総合的な学習の時間	心を1つに!		まちと命を守る防災リーダーに!											
	【課題の設定】 ○身に付けさせる資質・能力等について確認しよう。 ○自分たちが主役の高原学校にしたい。 【情報の収集】 ○高原学校での生活・約束事について知ろう。 【整理・分析】 ○高原学校の活動について話し合おう。 【まとめ・表現】 ○高原学校の感想をまとめよう。(4月・5月)		【課題の設定】 ○身に付けさせる資質・能力等、SDGsについて確認しよう。 ○防災について専門家等の話を聞き、自分が住む地域の課題を調べてみたい。(5月)		【情報の収集】 ○フィールドワークやハザードマップ等を通して自分が住む地域の災害リスクや自助、共助、公助について調査しよう。 【整理・分析】 ○地域の災害リスクを整理しよう。 ○タイムラインを作成しながら災害時の行動を考えよう。 【まとめ・表現】 ○防災マップを作成しよう。(6月・7月)		【課題の設定】 ○避難所運営ゲームHUGを体験し、避難所運営に自分がどうかわかるか考えたい。 【情報の収集】 ○避難所運営について自分なりの提案をまとめ学校運営協議会に向け中間発表しよう。(9月・10月)		【整理・分析】 ○学校運営協議会の意見を基に修正する箇所を話し合おう。 【まとめ・表現】 ○避難所運営について自分なりの提案の最終案をまとめよう。(11・12月)		【課題の設定】 ○災害に関わる職業調べを行い働く意義や仕事のやりがいについて知りたいたい。 【情報の収集】 ○職業人に話を聞く会を通して自分の将来や生き方について考えよう。(1月)		【整理・分析】 ○職業人に聞いた話を基に、提案内容を見直そう。(2月) 【まとめ・表現】 ○提案を授業参観等で保護者や地域に向け発表しよう。総合フェスタ(2月) 【ふりかえり】 ○単元全体をふりかえろう。(3月)	
	17 持続可能な社会を築こう		3 すべての人に健康と福祉を		11 住み続けられるまちづくりを		13 気候変動に具体的な対策を							
	情報リテラシー教育を機会あるごとにしていこう													
	音楽													
	美術	SDGsと家庭科分野のつながりを確認する。												
体育	ガイダンス 持続可能な社会の構築へ													
家庭	SDGsと技術分野のつながりを確認する。													
技術	ピックアップ SDGsとTechnology													
道徳	傷害の防止 自然災害による傷害の防止													
<p>○先生も子どももわくわくする単元構想をしましょう。 ○先生と子どもで身に付けさせる資質・能力を共有しましょう。 ○総合的な学習の時間で学んだことを保護者や地域の方々等に発信しましょう。</p>														

**E S Dの視点に立った教育活動**

○地域を愛し、地球規模の視野をもって、藤岡の未来を創造する持続可能な社会の創り手を育む。

**小中一貫教育**

○9年間を通した系統的なカリキュラムを作成し、学びの連続性と生徒指導の継続により学力の向上を目指す。

**コミュニティ・スクール**

○学校運営協議会を組織し、地域学校協働本部との一体的推進により、地域とともにある学校づくり、児童生徒の学力の向上を目指す。

**高山社学**

○興味・関心をもとに地域学習を進め、活用の能力を身に付けさせる。  
○高山社の歴史的価値について学び、郷土を誇りに思い、愛する子どもの育成を図るとともに、持続可能な藤岡市を目指す。

**算学塾**

○算数・数学の面白さを実感させ、様々な問題に意欲をもって挑戦できるようにする。  
○既習の知識等を活用して、自ら課題解決ができる子どもを育てる。

**サマーイングリッシュチャレンジ**

○英語が「わかる」「伝わる」という経験を通して、英語の楽しさに触れ、生涯にわたって英語を学ぶ意欲を高める。

**総合フェスタ**

○総合的な学習の時間の中で、それぞれが考えた課題について調べたり、まとめたものを家庭や地域等に発信することを通して、表現力を育成する。

**国際教育・英語教育の充実**

○小学校低学年から外国語活動を実施して、ALTとふれあう体験を通して生の英語に触れさせ、小学校中学年・高学年、そして中学校へと、系統的な学習を展開する。  
さらに、カナダ・リジャイナ市とのホームステイにおける相互交流等を通して、国際社会の中で積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てる。

**チャレンジウィーク**

○地域の協力を得て行う5日間の職場体験を通して、自分の将来に夢と希望と情熱を持ち、自分なりの「生き方」を見つめられるようにする。

**いじめ問題解決に向けた取組**

○いじめ問題解決に向けた子ども会議や教育懇談会の実施を通して、子どもたちが主体的にいじめ問題を解決する態度を育てるとともに、いじめ防止担当教員を核とする学校・保護者・地域・教育委員会が、連携・協力していじめをなくすための基盤をつくる。

**読書・情報リテラシー教育の推進**

○学校での朝読書により習慣化を図り、家庭でも「家読(うちどく)の日」を中心に、読書する環境をつくることを呼びかけ、家庭と学校が連携して、子どもたちが読書に親しむ習慣を育てる。また、情報リテラシー教育を推進し、メディアとの正しい関わり方を身に付けると同時に、授業等でICTを積極的に取り入れ、有効に活用できる子どもを育てる。

**誰一人取り残さない教育の推進**

○特別支援教育の充実・不登校児童生徒へのきめ細やかな支援

学力の向上

活用する力の育成

世界にはばたく  
人材の育成

キャリア教育  
の推進

思いやりの心  
の育成

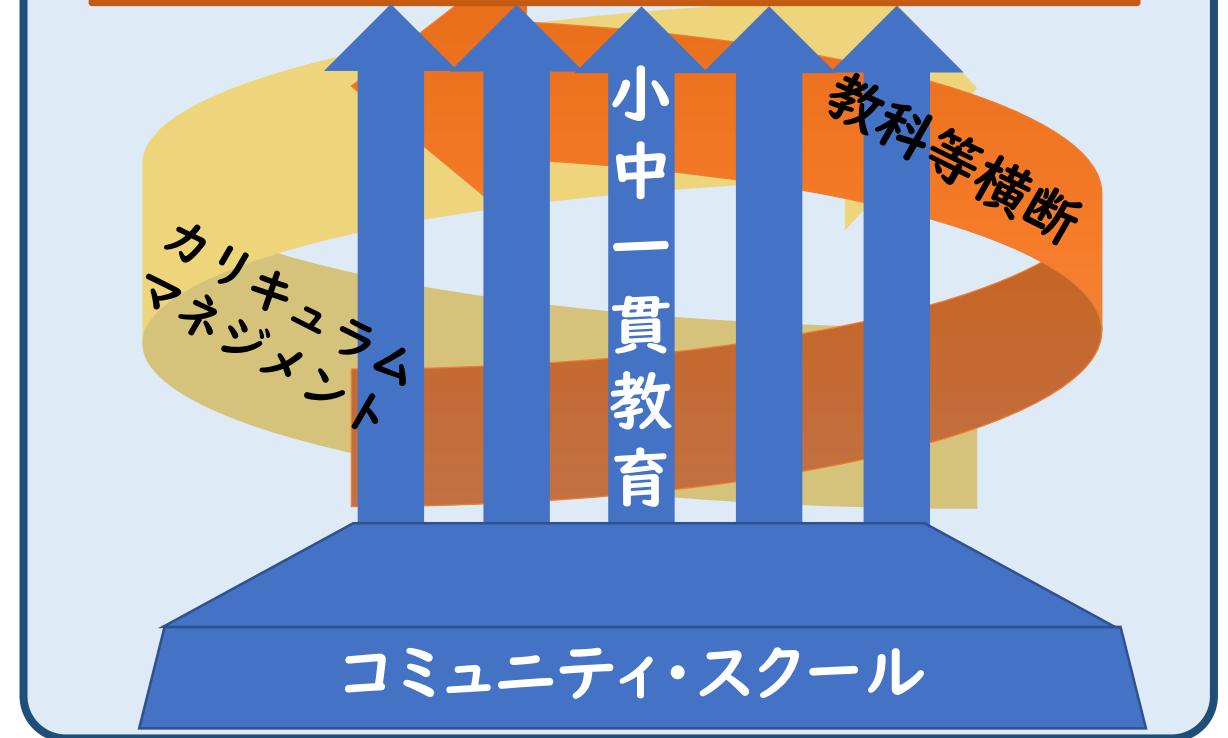
読書と情報リテラ  
シー教育の推進

特支・不登校  
支援の推進

令和8年度 藤岡市の学校教育

持続可能な社会の創り手の育成

目指す子ども像=身に付けさせる資質・能力の明確化



コミュニティ・スクールを基盤とし  
ESDで未来を創る小中一貫教育

- (1) E S Dの視点に立った教育活動の充実
  - ・総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントの実施
- (2) 小中一貫教育の充実
  - ・学びの連続性を踏まえた子ども主体の授業づくり
  - ・生徒指導の4つの視点を生かした意欲を高める指導の継続
- (3) コミュニティ・スクールの推進
  - ・学校運営協議会での承認・熟議
  - ・地域学校協働本部との一体的な取り組みによる教育活動の充実